

(担当者 様)

団体構成員の方に広く知らせてください

しずおか

2018年 11月14日

発行

県社保協ニュース

24期 No.5

県社保協事務局長
小高 賢治

連絡先 電話 054-253-7275 FAX 054-253-7276

Eメール shahokyo@if-n.ne.jp

子どもの貧困と支援について学び、交流！

「人間らしい生活を！いのちを守る第3回静岡県民のつどい」(11/11)開催！

11月11日(日)、静岡県産業経済会館で「人間らしい生活を！いのちを守る第3回静岡県民のつどい」が県社保協加盟団体をはじめ25団体の協賛、参加約60名で行われ、「子どもの貧困と支援」について学び、交流しました。そして県に提出する「貧困対策と格差是正施策の充実を求める要望書」を採択しました(11/14 県に提出)。

記念講演では「子どもの貧困はなぜ起こるか」をテーマに名城大学准教授の蓑輪明子氏が記念講演を行い「社会保障を充実させ、働いたら普通に暮らせる賃金にさせる社会に転換させ、子どもの貧困をなくしていこう」と訴えました。

シンポジウムでは「静岡学習支援ネットワーク」の皆川武蔵さん(県立大学2年生)、「田町子どもほっとかん」の荻野洋子代表(元小学校教師)、「子ども食堂沿津レインボーフォーラム」の伊藤幸男さん、「県保険医協会」の山田美香副理事長(歯科医師)から、子どもの貧困に対する各自の問題意識を出し合い、具体的な取り組みを参加者(フラワー発言も)も含めて交流しました。



「働いたら普通に暮らせる賃金に！」「地域との連携を密に！」していこう



参加者からは「労働者の賃金が低いことが、子どもの貧困につながっていることが、指標等からも明らかであることがわかった」「所得保障、就労保障、社会保障の充実が必要」だ「子どもの支援について、多角的に考えるよい機会となりました。地域との連携を密にすべきだと思った」「貧困によって子どもの居場所がうばわれたのだと認識することができました」「などなど。参加者の半分近い人がアンケートが寄せられました。

来年もまた行いたいと思いますので、企画、運営等の意見、要望等ございましたら、ご連絡下さい。12月13日(木)の実行委員会で話し合います。

国保料(税)上げるな！の声を県へ！署名目標3万筆達成に向けて

11/29(木) 11:30 県議会議長に提出予定

各団体とも各単産、支部、班、地域の状況をつかんで下さい。そして学び、励まし合いながら目標達成に向けて、残すところあと2週間、あらゆる工夫と手立てを尽くして頑張りましょう。

※11/11までの署名数の到達をお知らせください。

○第4回集約日：11月21日(水)

○最終集約日：11月27日(火)

記念講演

貧困によって子どもの居場所がうばわれたのだと認識することができました。

子どもの貧困の背景、雇用形態や人々の認識にまで及ぶお話で、視野が広がりました。

所得保障、就労保障、社会保障の充実が必要だ。

労働者の賃金が低いことが、子どもの貧困になっていることが、指標等からも明らかであることがわかった。社旗保障の充実が不可欠であると思った。

シンポジウム

各自の問題意識を組織として組み立て行動していくことを学び、とても参考になりました。

子どもの支援について、多角的に考える良い機会となりました。地域との連携を密にすべきだと思った。

最後の先生のお話で、貧困によって子どもの居場所がうばわれたのだと認識することができました。

参加者が少なかった。

シンポジウムになっているが、報告でよいのではないか。シンポならそれぞれがディスカッションがないとおかしいと思う。

次回

1人1人が大切にされる社会にしていきたいと思います。



